

3. アレキ産地の生産・販売戦略立て直しに向けた技術開発の方向（情報）			
[要約] アレキ産地の生産・販売戦略立て直しに向けて期待される技術開発は、第1に現行の<u>出荷基準</u>を容易にかつ安定的に満たせる生産技術、第2に<u>無核化技術</u>、第3に消費者が購入しやすい少量目・低価格販売のための<u>小房化・低コスト</u>生産技術である。			
研究室名	経営研究室	連絡先	0869-55-0546

[背景・ねらい]

農産物価格全般の低迷がみられるなかで、これまで進物需要向けを主体に販売してきたブドウ‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’（以下、アレキと略す）の販売単価も大きく低下しており、より市場ニーズに合致した生産・販売戦略の立て直しが求められている。また、そのための技術開発サイドからの支援が必要になっている。

そこで、販売単価の動向をとおして市場ニーズを間接的に捉えているアレキ農家へのアンケート調査から、生産技術面での支援策を明らかにする。

[成果の概要・特徴]

1. 今後のアレキ販売戦略の方向は、小規模農家が大衆消費向け販売の拡大を支持するのに対して、大規模農家は進物用販売の継続を支持する傾向にあった。ただ、販売単価の低下が大きいとはいえ、依然として単価の高い進物用販売が今後も販売の主体になると考えられるため、手順としては「大衆消費向け販売の拡充によって消費者にアレキの良さを十分に知ってもらい、このことを進物用利用の拡大につなげていくこと」と考えられた（図1）。
2. このうち進物用販売の戦術としては、「低品質アレキの出荷制限」、「糖度の基準強化」、「粒大の基準強化」の順に支持が多く、高品質なアレキだけの厳選出荷による進物利用への信頼度の向上が重要と考えられていた（図2）。
3. 一方、大衆消費向け販売の戦術としては、「出荷市場のより一層の拡大」と消費者が購入しやすいための、また小売店が取り扱いやすいための「出荷形態の変更」の順に支持が多く、消費者がアレキを家庭内で消費するために購入しやすい条件づくりが重要と考えられていた（図3）。
4. このような販売戦術を進めていくうえで農家が期待する技術開発は、大粒化技術、無核化技術、糖度向上技術の順であり、小房づくりの技術は期待が低かった。このうち無核化技術は、ブドウ‘ピオーネ’を意識したものと推測された。また、大粒化技術と糖度向上技術については、一方で8割以上の農家が出荷基準は「現行（粒大：LL11g以上、糖度：16度以上）で良い」としていたため、簡単でかつ安定して現行の出荷基準を満たすことのできる生産技術への期待と考えられた（図4、5、6）。

以上から、農家の期待に応えるアレキの技術開発の方向は、第1に現行の出荷基準を簡単かつ安定して満たせる生産技術、第2に無核化技術と判断される。ただ、販売戦略のうち大衆消費向け販売を進めるためには、消費者が購入しやすい少量目と低価格の設定が重要な条件になってくるため、第3に小房化・低コスト生産技術の開発が必要であり、これらの同時並行的な取組みが望まれる。

[成果の活用面・留意点]

1. アレキの生産・販売戦略立て直しに向けた研究面での課題設定に利用できる。

	進物商品主力 の販売継続	大衆消費向け 商品の拡大	直販・通販の 強化	その他
全体平均	29.7	42.9	26.2	
100坪未満農家	23.3	51.8	24.1	
100～300坪農家	22.7	48.4	27.3	
300～600坪農家	37.0	35.9	26.5	
600坪以上農家	49.1	24.0	25.0	

図1 今後のアレキ販売戦略

注) アレキ農家863人へのアンケート結果による。以下、図2～図6も同じ。

	粒大の基準 強化	糖度の基準 強化	糖度検査に よる格付け	低品質果実 の出荷制限	その他
全体平均	23.5	30.0	8.9	34.8	
100坪未満農家	32.1	14.3	14.3	39.3	
100～300坪農家	23.9	31.0	9.9	32.4	
300～600坪農家	27.0	34.9		33.3	
600坪以上農家	14.3	32.7	10.2	34.6	8.2

図2 進物用アレキの出荷品質維持方法

	コンテナ・パックへ の出荷形態の 変更	出荷市場の大 都市への集約	出荷市場の地 方への拡大	その他
全体平均	37.7		54.7	
100坪未満農家	46.8		51.6	
100～300坪農家	35.5	8.0	55.8	
300～600坪農家	34.5	8.6	55.2	
600坪以上農家	33.3		54.2	8.3

図3 大衆消費向けアレキの販売方法

	糖度 向上	大粒 生産	無核化 技術	小房 づくり 技術	その他
全体平均	13.8	48.1	32.0		
60歳未満	14.9	41.0	36.3		
60歳代	12.5	48.7	33.0		
70歳代以上	14.7	53.0	27.9		

図4 アレキに期待する開発技術

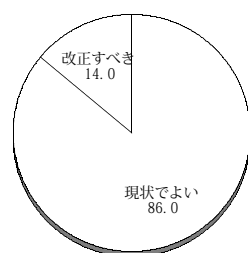


図5 粒大基準(LL:11g以上)の捉え方

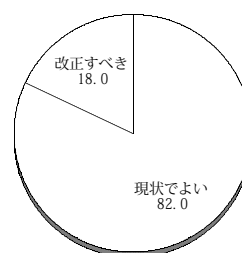


図6 糖度基準(16度以上)の捉え方

[その他]

試験研究課題名：消費・市場ニーズを捉えた高付加価値果樹生産・販売システムの確立

予算区分：県単

研究期間：平成14～16年度

関連情報等：全農岡山県本部発刊「果樹」誌（2002年10月～12月号）に掲載